

2025年度 11月 4日



オ リ ー フ 通 信



せいしよの
ことば

神は愛です。

ヨハネの手紙Ⅰ 4：16

11月は児童虐待防止月間です

神愛保育園

「11月をおかえて」

少しずつ秋の深まりを感じられる季節を迎えました。10月には、幼児クラスの神愛スポーツフェスティバル、いもほり遠足を実施いたしました。いもほり遠足ですが、6月に保護者の方々と一緒に植えた苗が、びっくりするほどの大きなおいもに成長していました。その大きく育ったおいもを、お友だちと力を合わせて掘り起こします。また、土に触れる機会が少ない子どもたちにとっては、土の柔らかさやにおいを知る貴重な体験の場となったようです。

さて、実は忘れがちなのですが、私たち神愛保育園にとって11月は特別な時です。今から74年前、1951年(昭和26年)11月1日、第1回入園式が行われました。最初の園長は、保育園創立者である賀川豊彦です。私どもの社会福祉法人雲柱社の創立者でもあります。

神愛保育園が出来るころの初代園長である賀川の紹介をさせてください。当時この地域は、東京大空襲で焼け野原となりました。戦後の混乱と荒廃がまだ残る中、社会が発展途上の状況下、あまり良いとは言えない環境の中で多くの人々がその家族を含めて生活していました。この状況を知った賀川は、地域への関わりと活動を始めました。保育園とキリスト教の伝道所です。実は、戦前の関東大震災直後に隣の墨田区(当時は本所区)でその後もいくつかの場所で、同様の願いをもって賀川は活動を始めてきました。賀川と言う人は、全国的な各種の社会運動、生活協同組合(現在のコープ)、農協を始め共同組合組織を日本で作りだした人々の一人であり、宗教家(牧師)、作家、教育者でもあり、他の多くの分野でも様々な働きをしました。又、キリスト教社会事業家として私財を投じて活動を行ってきました。この園舎の土地も、東京都の払い下げの土地を賀川自身が購入し、そこに保育園の建設をおこないました。この神愛保育園の場所には、創立者の願いや思いがたくさん詰まっている土地なのです。

また、賀川の仕事の一つに、1924年(大正14年)に関東大震災1年後に東京深川の講堂(現在の猿江付近)で発表された「子どもの権利」があります。日本でまだなじみのなかった内容で、簡潔に記すと「子どもには生きる、喰う、眠る、遊ぶ、指導してもらい、教育を受ける、虐待されない、親を選ぶ、人間一人格としての待遇を受ける」ことを訴えました。現在の「こどもまんなか社会」の実現のためにも通じるものです。このことで1999年(平成11年)12月、国連が採択した「子どもの権利条約」のもと、「子どもの最善の利益を守るリーダー」として世界の52人の一人に選ばれました。



社会そのものが大きく変わり、人々の意識や考え方も大きく変化しています。しかし、創立者の思いを引き継ぎ、どんなに小さな赤ちゃんであっても、一人の人間としての権利を持つ子どもとして、子どもの姿をしっかりと見つめ、向き合い、支えていく保育をこれからも職員一同深めていきたいと願っております。

神愛保育園園長

鵜澤由記子



食事だより



【さんまの一匹食べをしました (ひまわり組)】

手作りの
紙芝居で説明



今後も、食育につながるこのような取り組みを経験しながら
子どもたちの楽しみや喜びの心を育てていけたらと思っています。

私の好きなメニュー【その⑩】

※職員の好きな食事のメニューを聞きました！

☆ 大須賀 靖子 (主任) 神愛歴 10年 ☆

【洋風 or ナポリタン風切り干し大根】

和食のイメージが強い切り干し大根ですが…洋風切り干し大根を初めて食べた時にその美味しさに感激し、その日のうちにレシピを聞いて家で試してみました。が、保育園のような味にはならず、このメニューは保育園で食べられるからと家で作ることは諦めていました。

そして…10月の食事でナポリタン風切り干し大根が登場し、再びその美味しさに感激しました。家でもチャレンジしてみようと思います♪

(材料) ・切干大根 ・ベーコン ・にんじん ・玉ねぎ ・油 ・コンソメ ・塩
(ナポリタン風の場合は⇒ ・ピーマン ・ケチャップ ・砂糖少々)

(作り方)

- ①切干大根を戻す(長い場合は切る) ②ベーコン、野菜を千切りにする
- ③鍋またはフライパンでベーコンを炒める ④火が通ったら切干大根をと野菜を入れ炒める
- ⑤柔らかくなったら、調味料で味付けして出来上がり！

(ポイント) 切干大根は火が柔らかくなるまでに時間がかかるので、柔らかめが好きな方は茹でておくのがおすすめです

保健だより 2025 年 11 月



どんどん日も短くなり、朝晩は秋の風を感じるようになりました。ジャケットやコートが必要な日もあり、冬の足音が聞こえてくる季節です。10月は園内で夏に流行りやすい流行性角結膜炎（はやり目）のお子さんが出て、流行が広がりました。潜伏期間が長いことから流行も長引きました。この時期は夏の感染症と冬の感染症が同時流行することがあります。お子さんの健康状態に気を配りながら、感染症対策をしていきます。

【インフルエンザの流行】

10月上旬インフルエンザが流行期に入ったと発表がありました。例年より1か月以上早い流行です。10月からインフルエンザ予防接種も始まっています。接種を考えていらっしゃるご家庭は、連年より早めの対応がいいかもしれません。（13歳以下のお子さんは、2回の接種が必要となります。）高熱から始まる事が多く、医療機関で判定が受けられます。発症後48時間以内に特效薬を使うことで重症化を防ぐことができ、早く解熱します。

この疾患は登園の際、意見書が必要となります。

11月12日は歯科健診です。
ご予約ください。

治療や経過観察が必要な方にお手紙を、また異常が見られなかった方には結果をお知らせいたします。（虫歯だけではなく、歯並びや歯肉の状態についてもお知らせいたします）治療が必要となった場合には、歯科受診をお願いします。



ひだまり

～地域の親子と園児の交流～



日が暮れるのが一段と早くなり、朝晩の冷え込みに初冬の訪れを感じますね。

10月に予定されていた神愛スポーツフェスティバルは雨天のため中止となっていました。参加希望の利用者さんからは「残念だった」「園児と一緒に体を動かしたかった」などの声がありました。

母親講座「和楽器に親しむ会」では、日常で耳にすることのないお琴の生演奏をひだまり親子と0歳、1歳の園児も一緒に体を揺らして楽しみました。聞き覚えのある童謡を「もう一回！」とアンコールの声があがりました。

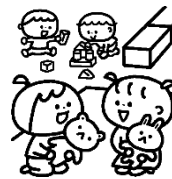


ハロウィンパーティーでは、ひまわり組が折り紙で作ったキャンディスティックを仮装したひだまりの子どもたちに手渡してくれました。

園児もひだまり親子も笑顔がいっぱいの交流となりました。また、ひだまりフォトスポットでは思い思いの写真を撮ったり、パンプキン茶巾を食べたりと楽しみました。



ともにそだっ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2025 年 1 0 月 1 6 日（木） 天気 曇り時々雨 もも組（2 歳児）

「大丈夫だよ」

今日は室内で可動遊具を使ってお風呂を作って遊んだ。A も一緒に遊びたくて、お風呂ごっこに入っていた。B や C が「せまい！」と言うと、A が泣き出してしまった。その様子を見た D が、「泣かないよ！狭くない！」とみんなに話をしていた。それでも「せまい！」という声が聞こえたが、「せまくないよ！」と D がみんなに優しく教えてくれた。D の言葉でみんなが落ち着いて一緒に遊ぶ事が出来た。保育者が仲介しなくても、子どもたち同士でのやり取りでトラブルが解決した瞬間だった

一人で始めたあそびが、楽しそうに見えると「わたしも」「ぼくも」と参加して複数人であそぶ姿がでてきたもも組の子どもたち… 10 月に何度かもも組に入りましたが、お友だちを誘って一緒にあそぶ姿が増えてきたことに成長を感じました。たんぽぽ組の時にも“いっしょが楽しい”と同じあそびを楽しむ姿もありましたが、現在ほどあそびが継続せず、場所やおもちゃをめぐるのトラブルも発生していました。

2 歳児はイメージの世界も広がり、1 歳児で楽しんだ生活再現あそびをもとに「～のつもり」であそぶようになります。お友だちといっしょにごっこあそびが楽しめるようになるのもこの時期です。かならずしも同じイメージをもつとは限りませんが、子どもはいっしょにあそぶこと、イメージが重なりあうことの楽しさを経験していきます。D はその楽しさを知っているために何とかして A をごっこあそびに参加できるように取り持っていました。ほかの場面でもお友だちが泣いていると「どうしたの？」と声をかけてくれ、どうして泣いているのかを聞き出してくれることもありました。あそびを通してお友だちと共感できる体験を大切にしながら“みんなであそぶと楽しい”という実感を育て、関わりが豊かになるように今後も見守っていきたいと思います。

2025 年 1 0 月 1 4 日 (火) 天気 曇りのち雨 ちゅうりっぷ組 (3 歳児)

「ともだちとのひみつ」

今日は、高森公園へ散歩に行く。広場では、追いかっこやポックリをして楽しんでいた。また固定遊具側の植え込みでは、ままごとや散策をして遊んでいる子どもたちだった。A と B が植え込みでの陰で遊んでいたため、(あまり一緒にいることのない二人だったため) 珍しい組み合わせだなと感じ、(何を話しているのかなど非常に興味があったため) 2 人に気付かれないように側に行き様子を見た。A と B は 2 人で穴を掘ったり葉っぱを集めたりして「これでわからないね」や「ここに隠そう」など会話をすすめながら、二人が発見した木の実などを隠して楽しんでいた。いつもなら公園で見つけたものを園まで持って帰って良いにしているが、(二人の様子を見ていると) 公園に隠しておくことも、今度来た時見つけてあったら子どもたちも嬉しいのかなと感じた。

3 歳児以降になっていくと、大好きなお友だちと一緒にいたい気持ちが強くなり特定のお友だちとの関係作りが始まってきます。そして、お子さんの会話の中にも、特定のお友だちの名前がよく聞かれるようになり、仲間との関係が安定してくる時期となります。この時期の子どもたちにとっては、一緒に遊ぶ相手が仲間であり、学童期以降の関係で育まれていく友情を土台とした友だち関係とは少し異なるようです。しかし、この 3 歳児年中の時期には、特定の強い関係であったにも関わらず、急に「もう遊ばない」「嫌い」などという言葉が出てくることもあります。この時期にできた関係は、継続的に長く続くようです。そして、この時期に見られるようになってくるもう一つの姿が、秘密を分かち合う関係が始まることです。まだまだ、内緒話をするような程度の秘密の話ですが、この時期の子どもにとっては秘密を隠し通すことはまだまだ難しいので、内緒話をお友だちと楽しむという時期のようです。あと一年もすると今度は口を閉ざして、「○○には言わないでね!」というなかなか秘密を打ち明けない時期になりますが・・・。

今月の日誌の 3 歳児の姿ですが、まさに二人で同じ関心と興味を持ちそれを話題にしながら、内緒話を本当に楽しんでいるようですね。そして、担任が珍しい関係と感じているこの二人の関係ですが、これ以後、特定の遊びの中で常に一緒にいる関係になり始めていることを聞いています。今まで、一緒に遊んでいる姿がなかったので、「なぜこの二人?」と感じているようですが、きっと大人にはわからない、二人が心を通わせるようなことがあったのだと推測します。

これから、お互いの気持ちを感じ取ったり、伝え合ったりして他者の気持ちを理解し、関係の絆を深めていってほしいと願っています。



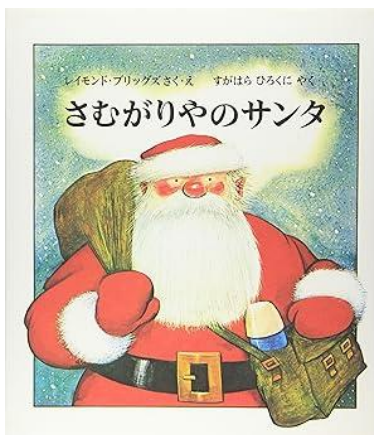
風が冷たくなるとともに、落ち葉が積もるようになってきたこの頃。立冬が近づき、もうすぐ暦の上では冬がやってきますね。今回は冬の行事や季節にまつわる絵本を紹介します。



① 「このゆきだるま だ-れ？」

文：岸田 衿子 絵：山脇 百合子 出版社：福音館書店

もみちゃんのそりから、うさぎさんもぶたさんも、次々おっこちてころがって… もみちゃんが下につくと、見たことのない雪だるまが！
声に出したくなる言葉のリズム、そして見ているとおもわず笑みが浮かぶ絵。「かばくん」の作者である岸田衿子さんと「ぐりとぐら」の画家、山脇百合子さんが作る、子どもも大人も一緒に楽しめる絵本です！



② 「さむがりやのサンタ」

作・絵：レイモンド・ブリックス 訳：すがはら ひろくに
出版社：福音館書店

「やれやれまたクリスマスか！」面倒くさそうに目を覚めたのは、サンタクロース。寒さに愚痴をいい、煙突に文句をいいながら町の子どもたちにプレゼントを配ります。
皮肉屋だけど実はやさしい、人間味あふれるサンタクロースを描いたクリスマスにぴったりの絵本です。



③ 「くまのこの としこし」

作：高橋 和枝 出版社：講談社

12月も終わりに近づき、「もうすぐ来年がくるよ」とお母さんから教えてもらったくまのこ。「『来年』ってどんなものなのかな？」ととっても気になります。お父さんやお母さんは、「来年」のために、大掃除をしたり、お節料理を作ったり、お正月飾りをつけたり、大忙し。「来年」はどんなふうに来るのでしょうか？

子どもの目で見えた「年越し」を描いている絵本です！

